



学校だより

とき・あかし錦城

2020年(令和2年)
8月18日(火)(第58号)
明石市立錦城中学校

2学期の始まり

…… 暑サニマケズガンバロウ ……

学校長 永田 浩史 (ながた ひろし)



みなさんは「雨ニモマケズ」という宮沢賢治の詩を知っているでしょう。小学校6年生の国語科で、手帳に書かれたこの詩を学習したことと思います。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ
慾(ヨク)ハナク 決シテ瞋(イカ)ラズ イツモシヅカニワラッテキル

と続きます。賢治の詩は1931年(昭和6年)に使用していた手帳に書かれており、そのページには11月3日の日付があります。当時、花巻(岩手県)に住んでいた賢治が現在の暑さを体験すれば、「暑サニマケタ〜!!」と記すかも知れません。

さてさて今年の暑さも強烈です。昨日発表された熱中症指数もついに33を超えてしまい、市内一斉に部活動が中止になりました。さらに新型コロナウイルス対策のためのマスクもあります。登下校時のマスクは状況(人との距離をとる、密にならない)に応じて外しましょう。昨日の下校時には、日傘を差して帰る生徒もいました。帽子よりも日傘の方が涼しいですね。工夫して暑さを乗り切ろう。



2学期始業式の話 8月17日(月)放送にて

みなさん、おはようございます。
短い夏休みが終了し、今日から2学期が始まります。夏休み中も新型コロナウイルスの猛威は衰えず、感染者数が増え続けました。また、日中の気温が相当高くなり、新聞やテレビでは熱中症のニュースを毎日取りあげていました。

例年なら夏休みの後半に向けて宿題や部活動などに取り組んでいる時期なのですが、明日からは授業が始まります。夏休み中の生活リズムから学校生活のリズムに切り替えて過ごしていきましょう。

さて、1学期の終業式では、「家の中で過ごす時間が増えるので、工夫して過ごしましょう」という話しをしました。みなさんは工夫して過ごせたのでしょうか。

先生は、ほぼ毎日山に登っていました。北アルプスを中心にして、薬師岳、五色が原、室堂、立山、剣岳。他にも雲ノ平、水晶岳から三俣蓮華岳。また、有名な上高地の河童橋から槍ヶ岳、北穂高岳、奥穂高岳などの3000m級の山々。季節も春から冬まで様々な季節の山を、地図を見ながら登ってきました。

もうわかったと思いますが、すべて本の世界です。この短い夏休み中に4冊の本を読みました。➤

暑

シヨ・あつい
●日(太陽)と、音を表す者(シャ-シヨ)(もえる意)とからなり、太陽がじりじりもえ照らして「あつい」意味を表す。

笠にとんぼをとまらせてあるく

種田山頭火

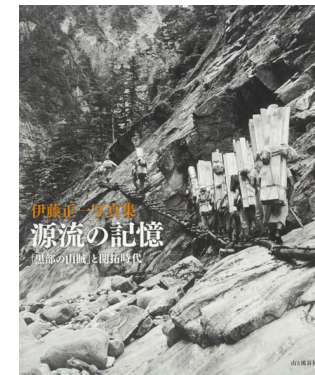
➤「定本 黒部の山賊」(伊藤正一)「源流の記憶」(伊藤正一)「新編 黒部の山人(さんど)」(鬼窪善一郎)「新編 単独行」(加藤文太郎)の4冊。明治、大正、昭和にかけて北アルプスで狩猟をしていた人や、一人で山に登っていた人の実話ばかりです。先生がこれまで登った山も入っていて、その時のことを思い出したり、まだ登っていない山については、山の地図を見ながら本に登場する人が活動した場所を探したりして過ごしていました。

この夏休み期間、実際に登ったのは8月10日の「山の日」に山陽電車の月見山駅から須磨名水の森を通って、須磨アルプスから高取山までの8.2km。とんでもない暑さでした。(下にコースと記録あり)

クーラーの効いた部屋の中で、本の世界が見せてくれる景色を想像しながら、山に登るのは案外よかったかなと思います。これから登りたい山の目標や計画を立てることもできます。

みなさんも工夫しながらこの夏を、一日一日を新鮮に過ごしていきましょう。新しい目標を持って進んでいくことが大切です。

これで、始業式の話が終わります。



活動データ

⌚タイム 03:50 大距離 8.2km ア上り 588m ア下り 636m



部活動等の結果

種目		結果
卓球	2年生女子の部 個人	東播地区コロナに負けるなカップ 優勝 吉田 加奈 おめでとう!

とき・あかし58 戦後75年 継承していくこと

同居の義母は85歳。義父を3年前に見送り、私と妻との3人暮らし。近所に住む義姉家族がほぼ毎日のように顔を見せてくれる。高砂に住む孫は曾孫を連れて毎週のように「大ばあば」のところにやってきては、楽しく過ごしている。

お盆休みには、孫たちが集まり白黒の写真を見ながら昔話に花が咲いていた。終戦の年、義母は10歳で岩岡小学校の4年生。「神戸の夜の空襲はすごかった。焼夷弾がパツと光って糸引くようにいっぱい落ちてきて真っ赤やった」。「明石の空襲は昼間。近くの竹やぶに隠れて布団を頭から被った」。「ラジオはB29が紀伊水道を北上とか言うのとった」と話してくれる。

8月15日の市政だよりには、明石は終戦までに6回の空襲を受け、県内では2番目に多い、1560人が亡くなり、市街地の約6割が焼失したとある。戦時を生き抜いた人たちの記憶を様々な形で継承し、次世代へ伝え平和を考えたい。

